

都市再生整備計画

たはらかじ
田原加治地区

あいち たはらし
愛知県 田原市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	田原市	地区名	田原加治地区	面積	258 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標 大目標 : 住民が、暮らして楽しい笑顔のある街づくりの推進。 目標① 自然環境と共生した街づくり(住まいづくり)を進める。 ② 新旧住民のコミュニティの再形成を主体とした郊外型街づくりを推進する。

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 加治地区は、人口1,504人、世帯数445戸の地区で、一部市街化区域と調整区域にまたがる新興住宅地区と田園地区が共存している地区である。特に地区の北側に藤尾山を頂き、そこを源流とする宮川が地区を流れ降りている自然資源の豊富な地区である。しかし、大雨が降った後には水路から雨水が溢れ、農地に入り農作物に被害を与えることもしばしば起っている。近年、地区コミュニティを中心に自然共生型の街づくり(住まいづくり)気運が高まり、緩やかに住民活動が進んでいるが、新旧住民のコミュニティの再構築を中心に自然環境を活かした暮らしの場としての整備が望まれている。コミュニティの内容は、山の管理として地区民(1軒1名)が参加して下草刈りを行ったり、河川敷に桜の木の植栽を行っている。 また、この地区には公営住宅があるが、奥まった所に位置し住宅への進入路も狭いため、最近では、コミュニティの孤立化が目立つようになっている。この住宅は、老朽により設備的にも汲取り式の便所を利用したり、風呂釜を持ち込みといったような不備もある。コミュニティ活動の中心は、中央部の自治会館で行う場合が多いため、自治会館へのアクセス不備もありコミュニティの孤立化につながっている。
--

課題 加治地区には、公営住宅が奥まった所にあり、老朽化により粗悪住環境、コミュニティアクセス道路の不備のため、コミュニティ的な孤立を招いていることから解消する課題がある。この地区は、豊富な自然財産があることから、藤尾山、宮川等の治山、治水対策を行い、地区住民が親しみながらコミュニティの形成が図れるような街づくりが課題である。

将来ビジョン(中長期) 住民主体によるコミュニティの再構築を中心に自然環境を活かし、自然環境と共生した街づくり(住まいづくり)を行う。 ○第4次総合計画(H9~H18) リーディング・プロジェクト・人と自然が共生する環境の創造・生きがいのある豊かな生活の創造・健やかな長寿社会の形成・災害に強い安全なまちづくりの形成 ○住宅マスタープラン 基本目標 ①誰もが安心して住み続けられる住まい・まちづくり ②恵まれた居住環境を活かし惹かれる住まい・まちづくり ③「住文化」を育てる住まい・まちづくり
--

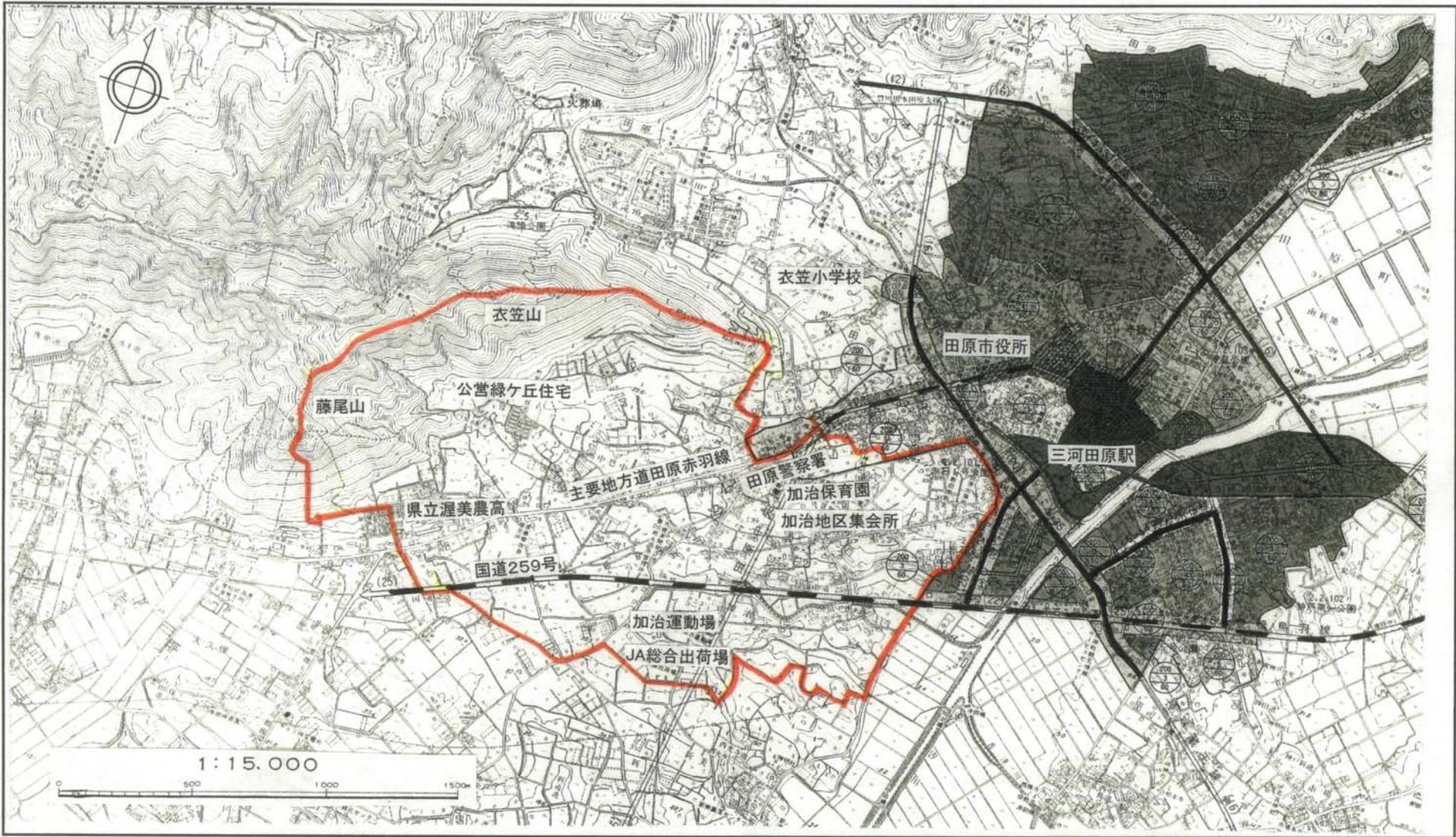
目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
地域コミュニティ活動参加者	人	自治会コミュニティ事業報告	地域コミュニティの再構築を図るため、コミュニティ活動の参加者を増やす。(H15実績、山林下草刈400人、ボランティア作業会200人、環境美化推進300人、スポーツ大会1,300人、盆踊り大会700人、防災・消火訓練520人。)	3,420	15	4,000	21	
自然観察会参加者	人	自然観察会への参加者	衣笠遊歩道等の整備を図ることにより、ササユリ・赤つつじ類の自生、鷺の飛来等の身近な自然を満喫してもらう。	400	15	600	21	
緑ヶ丘住宅住民満足度	%	アンケート	住宅の建替えを行うことにより、住環境満足度を高める。	60	15	100	21	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・加治町は、市街地に隣接しているが、市街地へ安心して歩いていけるアクセス路が少ないため、市街地と有機的に結ぶための市道東取手沢線(L=1,000m、W=8~11m)を整備する。また、加治町のコミュニティ活動の場所は、中心部の自治会館を基点に行っているが、緑ヶ丘住宅からは約1kmと距離がありコミュニティの孤立があることから、老朽公営住宅の粗悪住環境の改善を図るため、市道中恩中奥恩中線(L=570m、W=8m)、市道赤石恩中線(L=1,125mうち900mは既存側溝改修、W=4.5~9.77m)の整備を行う。</p>	道路整備
<p>・自然と共生するまちづくりを推進するため、加治町では、年1回地区民総出で地区持ちの山の下草刈、2級河川「宮川」の清掃活動を行っている。宮川では、フナ・メダカの小魚が戻ってくるように、河川堤に桜を植えたり、河床へ階段を随所に設置し、以前の自然豊かな河川に復元する取組みを行っている。そこで、地区住民の憩の場づくりを進めるため、宮川公園を整備する。また、この地区は背後地に山を抱えていることから、自然に親しむ機会をできるだけ多くするため、衣笠遊歩道等の整備を進める。一方では、この山の排水で一部水路が無いところがあり、大雨が降った場合、農地等に溢れ被害がしばしば出ているため、水路の新設及び改修を行う。</p>	公園整備 地域創造支援事業
<p>・地区内の公営住宅は、築32年を経過し、2~4戸長屋(PC造平屋建、2K、53戸、36~39㎡/戸)で隣の家の生活音が聞こえたり、汲取り式の便所を使用していることから衛生的にも良くない住環境である。また、風呂釜を入居者が持ち込むといった設備面での不備もある。このようなことから、公共下水道への接続と併せて老朽化した公営住宅の建替えを行い環境共生住宅として住環境の改善を図る。また、緑と土を多く配置することにより、入居者が自然への親しみをより深めることができるような里山住宅を目指す。</p>	公営住宅整備
<p>その他</p>	
<p>・平成15年8月20日田原町と赤羽根町が合併して田原市が誕生して加治町となり、これを期にコミュニティの拠点づくりとしてJA集荷場を買取り加治自治会館を整備した。この自治会館には、自治会だって地球環境を考えようとのことで、6kWの太陽光発電のソーラーパネルを屋上に設置した。</p> <p>・加治地区では、年4回のボランティア作業会を実施し、河川美化・山の下草刈・水路清掃・枝払い等の作業を行い、自然と共生する住環境整備を行っている。また、地区内の宮川へフナ・メダカ等の小魚が戻る川を取り戻すエコリバー事業や、地区持ちの山の散策道の整備を行うため、ワークショップを行い街づくりを進めている。</p> <p>・加治自治会では、地域に暮らす人と人の心を結ぶ情報誌「加治ねっと」を自治会編集委員により、年4回発行してコミュニティの構築に努めている。</p> <p>・加治地区では、地区持ちの運動場・テニスコートがあることから、地区でのスポーツ大会・運動会を開催して、地区人民の交流を深めている。</p> <p>また、以前は市内の数ヶ所の地区で、青年会・婦人会が主体となり盆踊りを行っていたが、青年会・婦人会の衰退とともに盆踊りを行う所がめっきり減った。加治地区も同様ですが、現在は自治会の運営により市内最大規模の盆踊りとなっている。</p> <p>・加治地区では、町の活気を取り戻すために様々なコミュニティ事業等を行っているが、情報の伝達方式が疎かになっているため、CATVを活用した地域コミュニティ音声告知サービスを利用し、地区住民に対してより迅速に案内・連絡等の情報を提供することが出来るようにする。</p> <p>・加治地区では、約200匹のペット犬が飼われているが、地区内の散歩時に、防犯見回り・あいさつ運動を兼ねた「愛犬バトロール制」を実施し、現在12名が自治会へ登録し活動をしている。なお、登録制は、今後も募集を続け、できるだけ多くの登録者にバトロールをお願いし、安心できる街づくりを進めている。</p>	

都市再生整備計画の区域

田原加治地区(愛知県田原市)	面積	258 ha	区域	田原市加治町 地内
----------------	----	--------	----	-----------



田原加治地区(愛知県田原市) 整備方針概要図

目標 ・郊外型街づくり ・自然共生街づくり ・里山住宅	代表的な指標	地域コミュニティ活動参加者 (人) 自然観察会参加者 (人) 緑ヶ丘住宅住民満足度 (%)	3,420 (15年度) → 4,000 (21年度) 400 (15年度) → 600 (21年度) 60 (15年度) → 100 (21年度)
--------------------------------------	--------	---	--

